

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 24 年 4 月 25 日現在

機関番号：16102
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21530843
 研究課題名（和文）幼稚園における教育実習生・新任教員の力量形成のための保育データベース開発研究
 研究課題名（英文）The study for development of database for cultivation of the nursing capacity of student teachers and new teachers in kindergarten.
 研究代表者 田村 隆宏（TAMURA TAKAHIRO）
 鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授
 研究者番号：50294731

研究成果の概要（和文）：本研究では、鳴門教育大学附属幼稚園が蓄積した保育記録や映像、またそれらに関する考察等を、大学における保育者養成に段階にある教育実習生や新任保育者が力量形成のために閲覧しやすいよう Web 上に蓄積、データベース化した。各実践事例について、事例に関する動画あるいは静止画、実践者による事例の説明および解説、保育者の支援と指導の具体的なあり方、そのような遊びを生み出す環境の実例、本研究で検討してきたキーセンテンスが含まれている。このデータベースを活用することで教育実習生や新任保育者が保育実践における重要なポイントをわかりやすく理解することができ、自らの保育実践に応用していくことで、保育者としての確かな力量が大いに育まれることが見込まれる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we develop the database for cultivation of the nursing capacity of student teachers and new teachers in kindergarten. The database has a lot of nursing records, pictures, video, and the discussion for each of these nursing cases. Each of nursing case has the animations, pictures, the explanation about nurse's support and good practice, the examples of nursing environment, and important key sentence. These student teachers and new teachers in kindergarten can understand the important points of nursing activity, and they can cultivate their nursing capacity, by using this database.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：幼児教育，保育，力量形成，データベース，幼稚園

1. 研究開始当初の背景

中央教育審議会答申(平成17年1月28日)
「子どもをとりまく環境の変化を踏まえた
幼児教育の在り方について」の幼稚園教員等
の今日的課題でも、「保育を構想し実践する
能力」が指摘され、幼稚園教師の力量を高め
ることがますます必要とされている。すなわ
ち、都市化や少子化につれて、子どもたちは
自然の中で遊んだり、異年齢の子どもたちと
協働して遊んだりする体験が少なくなり、
「環境や人へのかかわりに課題をもつ子ど
もたちへの対応」が幼稚園教員にとって急務
となっている。このような現状において、幼
稚園教員が子どもの発達に必要な体験につ
いての確かな見通しをもち、同時に一人ひと
りの子どものこころを理解して、「保育を構
想し実践」することが必要不可欠な力量とな
るのである。しかしながら、教育実習生や新任
の幼稚園教員にとって、それは容易なことでは
ない。

子どもの発達に必要な体験についての確
かな見通しは、教育課程や、長期・中期・短
期の指導計画として体系化されており、それ
を具体的に実践するために様々な環境の構
成等が行われている。豊かな保育を展開する
教師の力量を確かなものにするため、「長
期・中期・短期の指導計画」や「具体的な環
境の構成や教材」、「子ども理解」などにつ
いてはこれまでも、それぞれ研究がなされて
きた(佐々木宏子1999, 門松良子2006)。しか
しながら学部や大学院の教育実習生や新任
の幼稚園教師たちは、指導計画と教材と子ど
もについて、個々には理解してはいても、そ
れらをどのように有機的に結びつければよ
いのか、というところに困難さを感じている。
それは先にも述べた「保育を構想し実践する
能力」の核心をなす部分であり、指導計画と

いう子どもの発達や保育についての大きな
見通しと、教材という身近な環境、そして一
人ひとりの子ども理解という、いわば横軸と
縦軸をクロスさせて保育を構想し、子どもに
かかわる教師の能力である。

これまで研究代表者や研究分担者は、保育
実践についての多くのエピソード記録(文書、
ビデオ映像)とり、分析を行い蓄積してきた。
そのエピソード記録には、教師の教育意図や
願いを込めた指導計画や教材と、一人ひとり
の子ども理解が盛り込まれている。特に教材
については保育のための「材料」ではなく、
「遊誘財」という新たな概念を生み出し、一
人ひとりの子どもがどれほど深く教材や環
境にかかわり遊び込むことができるのか、と
いうことが保育の質を決定づけていること
を明らかにしてきた。(奨励研究, 鳴門教育
大学研究紀要 2006-2008, 鳴門教育大学附
属幼稚園研究紀要 2004-2008)つまり、教
師の教育意図や願いを込めた指導計画や教
材と、一人ひとりの子ども理解を「つなぐ力」
が教師の力量や保育の質を高める上で重要
なのである。

そこでさらに、教育実習生や新任教師の保
育の質の向上をはかるためには、指導計画・
保育環境・教材(遊誘財)・子ども理解を「結
びつける力」を教師が身につけるための具体
的手法についての研究開発を行うことが有
用である。本研究課題において幼稚園教師が
保育を構想・実践する際に用いることができ
る、「長期・中期・短期の指導計画」と具体
的な環境の構成や教材・子ども理解を描き出
したエピソード記録(文書・ビデオ映像)に
ついてのキーワード検索が可能な保育デー
タベース開発を行い、汎用化することができ
れば、保育の質を高め、幼稚園教員養成に資
することができると考えられる。

2. 研究の目的

幼稚園における教育実習生や新任教員が保育を構想・実践する際に用いることができる、「教育課程や長期・中期・短期の指導計画」と具体的な環境の構成や教材、子ども理解などを描き出した「エピソード記録」（文書・ビデオ映像）についてのキーワード検索可能なデータベース開発を行い、保育の質の向上に資することである。

3. 研究の方法

指導計画にもとづいた保育実践のエピソード記録（文書、映像）を蓄積し、検索する際に用いるキーワードの精選し、保育データベースを作成した。本データベース開発のプロセスは、保育実践の内実を語る言葉に向き合うことでもある。

保育を語る言葉はテクニカル・タームであるはずが、保育という現象の独自性ゆえに、保育を語る言葉が曖昧になりがちな側面がある。子どもとのかかわりを規定するものは、そのときの環境や子どもの個別性、保育者の個別性等であり、保育とは二度と全く同じ場面がめぐってこない、一回的なものなのである。ある言葉から同じ現象を演繹することつきまとう困難さを克服するために、現象から言葉を帰納する方法によって、言葉と現象をより密接に結びつけることはできないだろうか、と私たちは考えて、データベースの検索キーセンテンスを考案した。

具体的には、データベース開発のために、保育カンファレンスにおいて、事例とその考察からキーワードを抽出する作業を中心に行った。キーセンテンスとは、文字通り、実践事例を分析する際の鍵となる概念である。つまり、その事例の本質とは何かを表すものなのである。カンファレンスでは、自らの保育を記録とした実践者（保育者）を中心とし

て、周囲で実践を支える保育者、そして大学教員、大学院生等が「共に」「様々な角度から」その実践事例のもつ意味について語り合い、キーセンテンスを引き出す作業を行った。キーセンテンスのもつ意味、位相、引き出す方法等々をめぐって、繰り返し話し合いが行われた。それは単に「キーセンテンスを付ける」という単純作業なのではなく、保育実践者をはじめカンファレンスに参加している一人ひとりが自らの保育観・子ども観を省察するプロセスでもあった。つまり、保育を語る言葉を探し、他者に語ろうとするプロセスそのものが、保育の質を問い、高めるプロセスでもあったといえる。

4. 研究成果

【遊誘財データベースの構築について】

本研究では、遊誘財に関して鳴門教育大学附属幼稚園が従来蓄積した保育記録や映像、またそれらに関する考察等を、大学における保育者養成や保育初任者が力量形成のために閲覧しやすいよう Web 上に蓄積、データベース化することを試みた。「遊誘財データベース」と名付けられたこのシステムは、CMS (Contents Management System) の一種である XOOB 用のモジュール medialinks (藤原ら, 2010) を利用して構築したものである。2011 年度末の時点で遊誘財データベースには、カテゴリ「砂・土・泥・水」に含まれる事例が 13 件、「植物」に含まれる事例が 32 件、蓄積されている。(科研費助成期間後も、順次他のカテゴリについて事例を追加する予定である。) それぞれについて、事例に関する動画あるいは静止画、実践者による事例の説明および解説、保育者の支援と指導の具体的なありかた、そのような遊びを生み出す環境の実例、本研究で検討してきたキーセンテンスが含まれている。

閲覧者は、タイトル一覧をたどったり、キーセンテンスを使って検索したりすることで、事例を閲覧することができる。また、本システムにはコメント機能がついており、事例についての気づきやコメントを書き込むことで、協同的に学ぶことが可能である。

遊誘財データベース構築の意義は、次の2点である。(1) これらの事例は、従来も印刷物やビデオとして閲覧することができた。だが、今回 Web 上にデータベース化したことにより、これらの情報を一括して参照することができるようになった。(2) キーセンテンスやキーワードによる検索が可能に、参考にした事例が見つけやすくなった。特に、事例の本質に関わるキーセンテンスによる検索が可能になったことは、従来のデータベースとは異なる点であり、実践の質を高めることに寄与しうる。

参考文献

藤原伸彦, 鍋山由美, 堀江真理子, 佐々木晃, 新田陸子, 勝浦千晶, 田村隆宏, 塩路晶子, 木下光二, 曾根直人 (2010). 保育の質的充実を支援する遊誘財データベースの構築. 日本教育工学会研究報告集「教育実践を志向した学習支援システム／一般」 JSET 10-1, 365-371.

【遊誘財データベースの大学授業における活用】

構築した遊誘財データベースを、保育者を目指す学部2年生(5名)を対象とした講義において活用、遊びについて学ばせた。15回の講義のうち連続する2回を使って、データベースの使い方を説明した上、遊びの場面の映像を視聴させたり実践者が記述した事例の説明や保育の意図を読ませたりした。その後、各自の気づきや意見をコメント機能で

使って共有させた。また、講義の最初や映像を見た後には、適宜、保育における遊びの意味や映像でみられる子どもや保育者の活動についての解説を加えた。

2回の講義の後、学生に対してアンケート調査を実施し、データベースの使用感や何を学べたかについて回答させた。5名全員が、保育者の支援の仕方について学ぶことが出来たと言及した。コメント機能に投稿された内容を分析すると、どの学生も最初のコメントで、遊びがどんどん展開したことと、そこに保育者の働きかけが影響していることについて記述していた。例えば、学生の一人は、コメントを投稿していた。

初めは大きな穴を掘るという活動だったのが、立て札を立てたり青いビニールシートを敷いたりする環境構成や、保育者の「私たち化石の発掘隊だね」という声かけによって、子どもたちは夢中になって化石を探すという遊びの世界に入り込むことができたのではないかと思います。また、子どもたちは友達の発想に刺激を受けながらどんどん遊びを展開させており、子どもたち自身も遊びが思いがけない方向に展開していくことを楽しんでいるからこそ、数日間にわたってこの遊びが続いていたのだと思います。

本システムを活用することで、学生に、どんどん展開していく豊かな遊びのイメージについて、そのためには保育者の支援が重要であることについて学ばせることができたといえる。そのようなことが可能になったのは、本システムが動画という形で具体的に遊び場が提示されていること、実践者自身が事例の解説や、特に保育の意図について記述した情報が掲載されていることが大きな要因と考えられる。

参考文献

藤原伸彦・田村隆宏・木下 光二 (2012). 「遊誘財データベース」を活用した保育者

養成, 教育システム情報学会, 29(1),
80-85.

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 藤原伸彦, 田村隆宏, 木下光二(2012)
「遊誘財データベース」を活用した保育者養成. 教育システム情報学会誌 29巻 第1号, 85-90. 査読有
- ② 藤原伸彦, 田村隆宏, 木下光二(2011)
保育者養成における「遊誘財データベース」の活用 教育システム情報学会研究報告, 25巻, 第7号, 65-70. 査読無
- ③ 藤原伸彦(2010) 学部生対象の授業における遊誘財データベースの活用 鳴門教育大学附属幼稚園研究紀要 44巻, 138-143. 査読無
- ④ 藤原伸彦, 田村隆宏, 塩路晶子, 木下光二, 曾根直人, 他(2010) 保育の質的充実を支援する遊誘財データベースの構築 日本教育工学会研究報告集「教育実践を志向した学習支援システム／一般」10巻 第1号 365-371. 査読有

[学会発表] (計1件)

- ① 保育者養成における遊誘財データベースの活用 教育システム情報学会研究報告会
発表者: 藤原伸彦, 田村隆宏, 木下光二 九州工業大学 2011年3月19日.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田村 隆宏 (TAMURA TAKAHIRO)
鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授
研究者番号: 50294731

(2) 研究分担者

木下 光二 (KINOSHITA MITSUJI)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授
研究者番号: 40509634

藤原 伸彦 (FUJIHARA NOBUHIKO)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授
研究者番号: 60333564

曾根 直人 (SONE NAOTO)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授
研究者番号: 70263879

塩路 晶子 (SHIOJI AKIKO)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授
研究者番号: 70314888

(3) 連携研究者

()

研究者番号: